友愛
発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽1-7-1
電話 東京(941)2801
編集兼発行人 斎藤 実
定価 1部 10円

オーストリアは招く

友愛スキー交歓団派遣

OJABとの交流を一層強化

本会のオーストリアにおける姉妹団体であるオーストリア勤労青年連盟との提携をとおして、本会では来年三月十三日から三月二十五日までオーストリアスキー交歓団を派遣することがほぼ決定した。これは昭和四一年より相互に交歓をすすめる趣旨書に基き、OJABが全面的に受け入れて実現されてきたものであり、昨年十二月より打合せが進められており、本年OJAB代表が来日した折再度確認されており、OJABの最終結論を待つのみである。その内容と計画が具体化した。OJABの返事を待ってであるが本会では仮申し込みを受け付け派遣の準備を進めている。

本会では来る七一年三月十三日より、三月二十五日までオーストリアに友愛スキー交歓団を派遣することが具体化した。オーストリアでの受け入れはオーストリア勤労青年連盟（ÖJAB）である。

近年、日本のスキー人口は驚くに増加し、各地のスキー場は若者の広場となり、青年の健全な野外スポーツとして注目を集めている。また、最近の日本経済の発展も急激な成長を遂げ、それに比例して青年の海外旅行も活発になりスキーについてもそれがエスカレートしている状態である。

そこで、若者のため安い費用と健全な施設をもとにスキー技術の向上を望む声に答え、本会が長年姉妹団体としてオーストリアの勤労青年連盟（ÖJAB）の助けを借り、スキーのメッカ、オーストリアで本格的スキー技術の向上のため、機会を企画した。

オーストリアはヨーロッパの中心に位置し、芸術・文化の中心地として、また交通の要所となっている。スキー交歓の会場となるケルンテン州は西ドイツが勇壮なアルプスの山脈が美景にお堀風のように終った〇年代が、次代に迎えたものは挫折感よりも無気力な倦怠ムードである。「怒」の高まりが無意味な破壊活動に結び付かず「怒」が短兵急な解決を求めず、底辺までのエネルギーを吸収し、明日を志向する政策をもっていたら、七〇年代はきっと「建設」の時代へと発展し得るだろうと考える。

都市化、高度工業化、公害等は人間の生活性を疑い、疑問を投げかけている。社会はみえない力によって動かされるのか、人間の意思に依るのか。「怒」が何者かにとってはねつけられてしまったらその反動として倦怠ムードが訪れてしまった。こうした時代的感覚は表面単純に作用しているようであるが、その情熱の結晶が具体化されたにそなえたら、特にオーストリアの最高峰グロース・ブロックナーを望み、その神秘的なまでに輝く広大な氷河は訪れる人を魅了せずにはおらない。こうした提携のトスキーの本場オーストリアで存分にスキーを楽しんで頂こうとするものである。

本会とOJAB（オーストリア勤労青年連盟）とは去る昭和四十一年、四十二年、四十三年、四十四年、四十五年と相互に会を交歓し、特に昭和四十三年は本会より十五名の代表団を送り、本年はオーストリアより七名の代表が来日。その親密度を加え、相互の組織の連帯の強化に努めてきている。

この計画は、本年度を初年とし過去本会が東南アジア、ヨーロッパに青年を派遣して来た実績を生かし毎年実施するものとする。

本年度は三名を限度として派遣。次年度は更に派遣団員の量的拡大を計り、五十名を派遣。昭和四十八年には本会の創立二十周年の年にもあたり、五十名ないし二百名の団員をオーストリアに派遣することを目指している。

こうして、派遣団員を増加させるとともに、毎年派遣経費を安くし、青年の海外での経験を豊かにさせ、内容面においても、オストリアの諸団体との打合わせによりて、漸次充実させ、OJAB会員との交歓を深め、青年の交流事業としても実のあるものとして努力を重ねて行くものである。

スキー交歓団の日程は別記の通りである。

前向きの姿勢

張 主一

（一）

今の時代、すべての人が病んでいる。喧噪に活を求め終と虚無のリズムを主とした言葉も人間の衰微を一時的に埋める以外の何物でもない。物価高、公害、都市の人口集中、農村の過疎、ベトナム、中近東問題等々どれをとってみても現代に生きる者にとっての積極的希望を与えるには無料なばかりである。

これをそう悪態憎悪するのではなく、これの問題を毎日、テレビや新聞で聞かされ見せられている事に対する世の動きに対して純感になり、それが興じて現実逃避に向かうしているという事実は否めない。

（二）

「怒」が一九六〇年代の特徴だったとすると「退廃」が一九七〇年代の特徴だと言う人達がいる。世代感はその時代的背景の下に生れてくるものであり、時代を反映するものである。

安保騒動に始まり、安保反動の動きは複雑である。

問の衰しを一時的に埋める以外の何物もない。物価高、公害、都市の人口集中、農村の過疎、ベトナム、中近東問題等々どれをとってみても現代に生きる者にとっての積極的希望を与えるには無料なばかりである。

これをそう悪態憎悪するのではなく、これの問題を毎日、テレビや新聞で聞かされ見せられている事に対する世の動きに対して純感になり、それが興じて現実逃避に向かうしているという事実は否めない。

安保騒動に始まり、安保反動の動きは複雑である。

（三）

幾いにも我々は友愛を軸として青年の団結をもって次代を志向せんとする同志の集いである。全国で展開される友愛交流の機会として築く一里塚のようなものである。当面、我々に与えられた目標を、いや我々が作って来た目標を我々のものとして受け止め、我々の手で実現させて行くという努力こそ、我々が目指す友愛社会へのささやかな歩みをかげて行く原動力となるであろう。目標を設定し実現して行くという努力こそ、ともすれば現実逃避に陥り勝ちな我々の行動を社会参加へと引き戻す前向きの行動であろう。

自己の意思と世代の連帯とによって時代は変化させることが可能である。なぜならば、若者が次代を担う者の主体であり、そこに求められる政策を持つことを可能ならしめるはずだと方向性が必ず将来を開くことができるからである。

（三）

幾いにも我々は友愛を軸として青年の団結をもって次代を志向せんとする同志の集いである。全国で展開される友愛交流の機会として築く一里塚のようなものである。当面、我々に与えられた目標を、いや我々が作って来た目標を我々のものとして受け止め、我々の手で実現させて行くという努力こそ、我々が目指す友愛社会へのささやかな歩みをかげて行く原動力となるであろう。目標を設定し実現して行くという努力こそ、ともすれば現実逃避に陥り勝ちな我々の行動を社会参加へと引き戻す前向きの行動であろう。

六人の仲間が決る

第四回「青年の船」団員

昭和四十五年度「青年の船」の募集は、六月末日をもって締切られ、本会でも、全国多数の会員から応募して来たが、厳正な選考基準を踏まえ、そして選考委員会を開催して、十名の候補者を推薦した。

今年度は、東南アジアの青年達の親善交歓の為に乗船させるというニュースも流れており、相当厳しい、競争率になったが、八月初旬に、団員候補者の内定が発表された。本会では、左記のメンバーが内定され、現在では、九月二十七日より始る、国立中央青年の家の団員研修会に備え、勉学に励んでいる。なお、昭和四十六年度も派遣される予定であり、会員一同、支部連絡、新聞等をよく注意され、一人でも多く応募して下さい。

昭和四十五年度「青年の船」本会関係団員候補者は次の通りである。

小柴　祐寿君（西会津支部）
仲村　祥司君（城北支部）
江藤孝治郎君（加賀支部）
川崎　準一君（小牧支部）
高梨　利夫君（南葛飾支部）
土屋ミヤコさん（財団事務局）

タイ留学生受入れ

第五回常任幹事会開催

去る九月九日（水）午後七時より、本部事務所に於て、社会勝弘常任幹事の議長の下に、第五回常任幹事会が開催された。

この日は、久し振りに、奥田吉郎常任相談役、中川省治常任参与も参加され、諸問題点のアドバイスを受け、慎重に審議された。

議題は、①第二十七回全国幹事会開催について、②友愛交化講演会について、③第十七回中央指導者講習会について、④タイ国青年留学生受け入れについて、⑤友愛オーストリアスキー交歓団（仮称）派遣について、⑥その他であった。

①については、友愛の日である十一月十五日（日）午前十時より嶋田邸離れにて開催する事とした。②については、東海、近畿ブロック、中国、四国ブロックの開催決定と、北海道、北陸、甲信越ブロックの事前打合せの報告があり、実施に於ける確認をした。③は十月十日より開催される予定であったが、中級指導者研修会の反省に鑑づき、来年二月末に延期を決定した。④は、現在福岡に留学中のタイ国留学生二名の東京来訪に於ける、出迎えの決定と、他のタイ国よりの交換留学生を六ヵ月間、受け入れの見込みを交渉しその取り扱い方を、財団法人日本友愛青年協会に一任した。⑤は、オーストリアより、非公式にスキー交歓団の受け入れ可能の連絡があり、本会として、前向きの姿勢で取り込み、実施方の実現を努力して行くとの、常任幹事の提案を、満場一致で、賛成、採択された。

本会からは長田事務局長・渡部常任幹事が出席した。この懇談会は文部省と社会教育関係団体の共催で開催され、関係団体の親睦を深めると共に文部大臣と接し社会教育活動の向上を目指そうとするための懇談会である。

社会教育関係団体

文部大臣との懇談会開く

文部大臣と社会教育関係団体との懇談会は去る九月八日（火）午後五時から七時まで東京上野公園にある国立社会教育研修所で開催された。

会は主催者側を代表して斎藤辰男氏の挨拶ではじまり次いで坂田文部大臣が一日頃献身的に社会教育活動の向上を目指そうとするための懇談会である

組織活動の実践学習

淡路で指導者研修会開く

第一回中級指導者研修会は九月四日から三日間、四方組織の海に囲まれている兵庫県淡路島の青年の家で開催された。

この研修会のねらいは、支部単位で友愛運動を推進する中心となるリーダーを養成するために活動を展開するに必要な知識、特に活動プログラムの企て方と活動を展開する中における諸問題の処理の二点に焦点が置かれた。

第一日目は受付終了後方の七時から二時間、レクリエーション学習を行なった。レクリエーションの活動に占める役割から集会などで気楽に出来る簡単なゲームなどについて学習した。

第二日目は事例討議と支部活動の展開とプログラムの企て方それに本部の組織対策の講座であった。「事例討議」は活動展開における問題点として実際にある支部で起った資金的な問題から会を説明する場合の疑問点や、友愛の会員としての日常活動の仕方などについていろんな角度から検討した。「支部活動の展開とプログラムの企て方」では、現行なわれている活動で反省すべき面を取り挙げその問題点の発生取因について話し合い解決策を検討した。「本部の組織対策」では本部側から支部側に対して求めること逆に支部側から本部に対し求めることについて意見を交換し、支部と本部の一体性を打ち出す場合の問題について議論された。

以上の五講座十三時間を真剣に学習し三日間の研修会を閉じた。

最後の日の六日には「友愛運動の今日的意義」と題して基本的な友愛理論を理解するための講義と私塾が今行なっている活動を友愛運動としてどう意義づけるかということと第三番に友愛運動を理解させるための方策について議論された。

この講習会の内容を紹介しておると。

初の夜は、長田事務局長の「レクリエーションの学習について」の講演と実演。

二日目は、早朝より渡辺組織委員「活動展開の問題点」夜に入って、渡部組織部長の「本部の組織対策」しめくくりの三日目は事務局長の「友愛運動の今日的意義」しめくくった。

全体として、息つくひまのないハードスケジュールで、この時間割の作成者を憎っているが(?)。

さて、この講習の中で最も私の印象に残り、有意義なプログラムの一つは、「活動展開の問題点」であった。

友愛精神とその説明の仕方、支部運営のあり方、実践活動、組織拡大の方法、プログラムの企て方事例討議が主内容であるが、この中で「プログラムの企て方」は大いに参考になった。

それは、プログラムを企てるに当り、基本的要素として、①学習活動、②話し合い、③奉仕活動④レクリエーション活動、の四つが、その中に含まれねばならないということであった。

三島支部に照らし合せてみると日常、私達の支部にレクリエーション活動が中心の活動をやっており、会員の集まりは、いいのだがもり上がり一つ足りないような気がしたのであるが、この点大いに反省させられ、他の学習活動を取り入れ改めていかねばならないと思った。

三日間を通じて離れ島に隔離されたような講習会で少々うるさかったが、朝のつどいで知り合った全国の若者と話したり、コーラスグループの若者達とフォークソングを歌い、海辺に出て石投げをやったりで楽しく、有意義な講習会であった。来年の講習会には、全国のリーダーの多くの参加を導みたい。

ただ、反省点として講習会参加申込者の方が、何の連絡もなく参加を取り消しいろいろな所に迷惑だけたことを反省マンとして、反省すべきだと思う。

帰りには機関紙「友愛」を青年の家、研修生に配布して、情宣活動もやいにつとめ、万博の余波で混雑する汽車で、悪戦苦闘したが満ちた気持で帰路につくことが出来た。

（三島支部支部長、本会幹事）

研修会に参加して

三島支部　黒萩　道義

三島支部長を引受けて、約五ヶ月目にしていろいろな悩みや壁にぶっかり初めたころ本部より、この講習会の案内状を受けて、一度に、この悩みと壁を解決し、支部の新たな飛躍を願いつつ、この催しに参加したのである。

真っ青な瀬戸内海に浮ぶ淡路島に着いたのは、夏の強い日射しの港で、東京より参加の渡辺幸憲田中恭一、渡部組織部長の三氏と乗り換えるバスの中で、一同、淡路島の印象について語り合う内に車は美しい海岸線に沿って走り、会場の国立淡路青年の家に着く。

三日間の講習会の内容を紹介しておると。

初の夜は、長田事務局長の「レクリエーションの学習について」の講演と実演。

二日目は、早朝より渡辺組織委員「活動展開の問題点」夜に入って、渡部組織部長の「本部の組織対策」しめくくりの三日目は事務局長の「友愛運動の今日的意義」しめくくった。

全体として、息つくひまのないハードスケジュールで、この時間割の作成者を憎っているが(?)。

さて、この講習の中で最も私の印象に残り、有意義なプログラムの一つは、「活動展開の問題点」であった。

友愛精神とその説明の仕方、支部運営のあり方、実践活動、組織拡大の方法、プログラムの企て方事例討議が主内容であるが、この中で「プログラムの企て方」は大いに参考になった。

それは、プログラムを企てるに当り、基本的要素として、①学習活動、②話し合い、③奉仕活動④レクリエーション活動、の四つが、その中に含まれねばならないということであった。

三島支部に照らし合せてみると

運動推進家養成

青少年育成国民会議研修会

去る九月三日（木）より五日（土）まで、国立江田島青年の家に於て、青少年育成国民運動継進推進指導員、推進員および中央団体で国民運動の担当をしているものおよそ、二百名ばかりの人々が北は、北海道から南は、沖縄から参加した。

協議会は、各分科会に分かれ、第1「青少年グループ活動促進と

推進員の活動」、第2「健全な家庭づくりの促進と推進員の活動」第3「青少年に有害な環境の浄化促進と推進員の活動」について熱心に討議された。途中、東京教育大学名誉教授、杉靖三郎先生により、病理学、心理学から起す問題点、科学進歩の問題、性理学から教育理念を中心とする青少年問題等の話しがあり、情熱心に聞入り、最終日には、全体討議を行ない各分科会の報告が行なわれた。

第一分科会では、こども会青少年対策として、リーダーの確保、未組織青年の組織化、目的集団と地域集団とのかねあい推進会員の役割、行政の問題点等が出された。第二分科会では、家庭の日の普及、あり方、規則について熱心に討議された。第三分科会は、有害マスコミ、シンナー、接着剤等有害物の問題、環境浄化行政と住民運動との兼ね合い、推進と指導員との関係について突込んだ討議が行なわれたとの報告があった。これを踏し、全参加者は、明日からの青少年指導に、もっと積極的に、運動を展開しなければならない事を申し合わせ、予定の日程を少々早め、江田島海上自衛隊技科学校等の見学を行ない三三五五、散会した。

春夏秋冬

▽……友愛婦人会は十二月に開く慈善婦人会の準備で忙しさがない。観劇会は毎年恒例の行事で、入場券の販売からの益金を福祉施設に寄贈している。婦人会では毎年何十万という多額なお金を寄贈しているのこのお金や、安易に誰か資産家からの寄附を受けて集めたものでなく自らのバザーや観劇会を催して捻出しているのである。まったく見事というほかはない。これだけの事をやり遂げるからにはやはりそれなりの組織力があるのである。千名もの強力な組織をつくるには何か秘訣があるのだろうかと興味をそそるが特別の事はないようである。ただ六〇〇円の会費の完全徴収と毎月一日の例会を欠かさず行なっているだけなのである。婦人会の姿見るに組織維持には会費の徴収と例会の開催という原則がいかに大事であるかを思い知らされる。

▽……この秋は早くも最多結婚を記録するとか。本会関係者もそれに漏れずまさに結婚ラッシュ。まず北海道山荘建設と協進している井手由雲が四月中旬常幹夫妻の媒酌でゴールインしたのを始め、前常幹の秋山弓、高知の大崎さん、それに七尾の橋本岩、名古屋の武井岩、北海道の佐藤章吾、山本君そして高橋岩は大村幸子（旧姓）と会員同志の結びその他光月に挙式される同志もあまた。まことめでたしめでたしの限りです。

▽……この秋は、まっ先に結婚を祝福し、ご冥福を祈りたい。

▽……私が友愛青年同志会を初めて知ったのは昭和三十年の五月だったのでした。

ついった事から私はずっかの青年運動は、左翼化の一途をたどり、古来の青年団組織の崩壊がみられました。一方、社会風潮は、民主主義の理論と実践がようやく人々の心に根をおろしうとする兆しが見え始めた頃、青年運動の左翼化と既成の青年運動に飽きたりず、慶れた指導者と高邁な理念に基く青年の大衆運動を求める気持がとみに強まっていました。

そういった時折り見くたまたま長野から生家に帰って来た清水文夫君（元常任幹事）から友愛運動なるものを教えられ

投書欄

「ロータリー」

"相互尊重、相互理解、相互扶助"を信条とするその運動体系にすっかり魅了されてしまいました。さらにその指導者は、日本を代表する大衆政治家鳩山一郎先生であったことは、友愛運動という形で青年が社会改革に邁進すると格好の条件であることを知りやがては私の社会での活動は友愛一辺倒になってしまったのでした。

ついった事から私はずっかの青年運動は、左翼化の一途をたどり、古来の青年団組織の崩壊がみられました。一方、社会風潮は、民主主義の理論と実践がようやく人々の心に根をおろしうとする兆しが見え始めた頃、青年運動の左翼化と既成の青年運動に飽きたりず、慶れた指導者と高邁な理念に基く青年の大衆運動を求める気持がとみに強まっていました。

そういった時折り見くたまたま長野から生家に帰って来た清水文夫君（元常任幹事）から友愛運動なるものを教えられ

"相互尊重、相互理解、相互扶助"を信条とするその運動体系にすっかり魅了されてしまいました。さらにその指導者は、日本を代表する大衆政治家鳩山一郎先生であったことは、友愛運動という形で青年が社会改革に邁進すると格好の条件であることを知りやがては私の社会での活動に強く惹かれてしまいました。

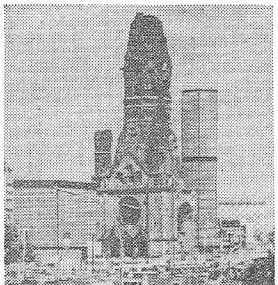
そうい

深まる独との交流

ベルリンに独人の誇り

事務局長 長田正太郎

本会の加盟団体である世界青少年交流協会（会長＝川崎秀二代議士）では、去る七月七日より八月四日まで約一ヶ月に渡り第十九回目独青期交歓団を派遣した。本会より長田正太郎事務局長を監督として、団員として細井幸子（徳島）村井幸代（石川）の三名がメンバーとして加わった。各班に別れての行動であったが、事務局長にその印象を語ってもらうことにした。【編集局】



はじめに

ドイツの近代化は日本に似ている。というのも、ドイツの近代化を倣って日本の今日があると言っても過言ではない。欧米諸国を回って来た伊藤博文等はドイツのそれが日本に似ているという事で、日本の憲法の範をドイツに求め日本の近代化がスタートした。日本の明治維新が一八六八年であるが、ドイツの鉄血政治で有名なビスマルクが対オーストラリア、対フランス戦争に勝利し、ドイツの統一を遂げベルリンを帝都としたのは一八七一年である。

第二次世界大戦を敗戦という同じ運命で迎えた両国が、戦後の奇蹟ともいわれる経済復興を遂げて今日の世界において大きな影響力を持つまでに至ったことは興味ある。この両国を世界青少年交流協会（会長＝川崎秀二代議士）の主催する第一九回目独青少年交歓団C班監督として団員二十三名と共に旅行する機会が与えられた事を心から感謝しなければならない。以下にその印象を記して報告に代えたいと思う。

訪独代表団

第十九回目独青少年交歓代表団は総勢一五七名であった。トップグループ七名とA班からF班までの七班に分けられていた。私達のC班は男性十二名、女性十一名と私の二十四名であった。ドイツでの約二週間の旅行のうち最初のボンでの三日間と最後のベルリンでの三日間は全団行動、後の約一週間はC班独自の行動であった。旅行期間中は一台のバスが専用に当てられ、エスコートが男性七名、女性六名リーダー一名の十四名であった。この他、バスの運転手も豊富なエスコートの一人であり通訳が一人付いて合計四十名が一緒の行動をした。

ドイツでの旅行は日本の交流協会側の発案として、①青少年交流②小旅行、③民泊、の三つが出されておりそれに基いて日程が組まれていた。

日独協会交歓事業は交流協会が実施している事業の中でも、内容日程、経費の安さ等伝統と歴史があり、相互にこのように大世帯を送り込むようになったのは今から六年前、本会の興田吉郎常任相談役が総監督として、尾形留雄幹事長が監督として以来、その実績を基に練り直されて来ているのである。

日本が経済的に発展し、海外との交流も盛んになり、オリンピック、万国博等世界的事業を通して、また各種の情報産業によって日本には過去のように欧米崇拝という風潮は無くなって来ている。この旅行でハンブルグ、ケルン、ボンベルリン、パリ等に沢山の日本人を見掛けたし、特に花の都パリでは、ルーブル博物館、エッフェル塔、コンコルド広場等観光名所へ行くと日本人がこうもおるものかと非常に驚かされた。

「百聞は一見しかず」ということわざ通り多くの人達が日本を離れ、海外事情に詳しくなることは多くの意義がある。「フーキョー」は世界語として通用すると言われる昨今でありキンガクレンが世界語として通用するようは平和的でいいかも知れない。しかし見て回ることは多くの疑問を感じた。旅行社が組む観光ルートに乗った絵一的スケジュールでヨーロッパの有名な場所を渡り鳥のように、ひょひょいと飛び回ってあわただしい旅行が多いようである。これも日本人らしくていいかも知れないが、もうそろそろ考え直してもいいのではないだろうか。

独の生活

横道にそれてしまったが、私達は東西ドイツの境界線に近いゲッチンゲン市のコステー市に近い、少々の地図には載っていないオステローテ県という田舎町を中心で自動車を出してガチャガチャ乗り回していて、あきて来るとそばへ来てイタズラをして行く。他愛も無いイタズラをしては鬼の首でも取った様に喜び、また少し経つと寄って来る。独語しか分らぬ彼女に何を言っても分らないが、ハルティ女氏もう、遠くから来たお客様なので大切にしなければならない旨言われていたのであっ

㊐青年団長よりオステローテ県の資料を各自手渡される㊏織田幹雄選手等が活躍したベルリンオリンピック競技場

オズラと共に

ハルティケ氏の孫＝オズラが遊びに来る。どこの子供も同じであるが、一寸とはにかみ「オズラです」と言って挨拶した。十分も経たないうちに友達である。どこが顔明の変った自分の言葉が通じない異国人でも、自分をかまってくれることに親しみを覚えた様であった。庭で昼寝をしていると自分にドイツを回ることになった。ケルンを初発って、グリム童話で有名であり、第二回東西両ドイツ首脳会談があったカッセルを通ってオステローテに入ったのが夕方であった。遠方の日本青年がくるということで「青年の家」は民泊の引き受け家族を初め多くの人が手に目の丸を持ち出迎えた。青年の家の広い庭には旗、幕、縦三・四メートルの日独両国旗が掲げられ、歓迎の意が心に伝わってきた。何せオステローテに日本人が大挙して訪れたのは有史以来初めてのことであり、私達の行動が毎日、新聞で報道されていたためもオステローテ市民の小持ちが分ろうというものである。

ここでは一週間の小旅行を挟んで三日と四日の一週間の民泊がおこなわれて。民泊は各家庭に一人二人あり、語学の出来、不出来関係がなく割り当てられた。この旅行が良かったという多くの意見はこの民泊に依る所が多い。私もハルティケ氏の姪に民泊したが、英語は全盲、独語は金然駄目である。六十歳前後の御夫婦一人暮して、奥さんが少々英語を喋る。五人の子供さんは結婚して独立している。オステローテには娘さんがいる（一晩歓迎会を開いてくれた）という、それでも英語の単語を並べていただけは通じたようである。

家は中流のようであり、また各家庭ともほとんど同じようであった。二階屋で窓が小さいが、カーテンや調度、家具等北ドイツの家庭らしく一部屋、一部屋が居心地よく作られ、庭にはプールがあり、リンゴ、サクランボ、その他沢山の果物の木があり快適な日を送れた。オステローテは北ドイツ、ニーダーザクセン州に属し、農家が住むというグロッケン山（東ドイツ領）に近い ハルツ地方にあった。北ドイツは平地の多い所だがこの地方だけは絶の山が少しある。山は美しい森で飾られ、山合を利用してダムが作られ、遠くプレーメンの水道の源にもなっている。ハルティケ夫婦はオステローテの南から北から西から東から、車に乗せて案内をしてくれた。

北ドイツ地方は各家庭は独立しており、家庭に招いたりするのはごく限られた人との付き合いが多いと言われる。オステローテでは子供の様に打ち解けてくれて嬉しいと言われた。さらに近所に女性二名が民泊しており、着物を着てハルテリケ宅を訪れた時など、それこそ大喜びで写真をとるやら大変であった。

独との友情

歓迎会、バーベキューパーティー、レセプション、学校見学、スポーツ施設見学、及び交歓、討論会、お別れパーティー等々ステローテの沢山の企画がなされたハルツ地方の特徴ある民族文芸、ヨーデル、民謡風俗等多くの人達の善意によってそれがなされ、新しい企画の申し入れとなって来ていた。ドンチャン騒をする訳でない、決していい物を食べさせようとする訳でもない。けれどもオステローテの人々の心が解ると伝わって来る様で嬉しかった。

ていることが理解でき、これこそ人と人との交流であると感ずるには遠れなかったそこには「心」がある。決して日本人にゴジるのではない。希望を言っても駄目なものは駄目と明確に言い、出来る事は誠心誠意尽してくれる。私達はわずか二週間の旅行であったが生涯忘れ得ぬ、変らぬ友情を築く事ができたと自負している。

独人の誇り

私の最も印象に残ったのはベルリンであった。西ドイツから隔絶百七〇㌔離れ、一九六一年に共産側が構築した「ベルリンの壁」は全長四十六㌔、東西ベルリンを完全に切り離し、西ベルリンの背後地帯との間には巾十五㍍に渡って有刺鉄条網と死の地帯が走っている。

西ベルリンの水際の連絡路は共産側当局によってコントロールされている。西ベルリンの死活を制する大動脈は三本の占領地区間道路（うち二本はアウトバーン、四本の占領地区間鉄道、三本の水路、それから三つの空、回廊である。この西ベルリンの自由と生活能力はアメリカ、イギリス、フランスの三国の確約によって保証されているが、まさに一隅の孤島といった感である。二百二十万のベルリン市民の自由と生活を守るための大きなエネルギーにドイツの誇りすら感じた。

日国会議事堂前でベルリンテレビのインタビューを受けた。印象を聞かせてくれたとの事だったが断わり「ベルリンへ来て平和の尊さというものが実感として受け取られた。第二次大戦を敗戦という同じ運命を持って終った日独が共に奇跡と言われる復興を遂げたが、日本の平和への誓いは広島や長崎にあって東京にはすでにない。ドイツを訪れるものは必ずこの地に足を運び、感動で胸を揺さぶられる思いがするであろう。

日独のかけ橋に

ドイツでの二週間の旅行は団体旅行である為、見たいもの聞きたいもの自分の思い通りという訳にはいかなかった。けれどもドイツ側の受け入体制、日程、内容、心配りよう、等々どれをとっても不満なものは残らない。二十歳前後の人達が初めて外国を訪れるならばこれ位充実した日程は無かったかも知れない。①十四名のエスコートが旅行中一緒にいたことは何よりもドイツを肌で感じる為に、同世代の意見が求められる。②人間関係を深めながらバスを利用しての旅行であったこと。③ドイツの大都会に腰を下ろしてのみならず普通の旅行者は滅多に行かぬ田舎を通してドイツの心情に触れたこと。④団体旅行で故障者でなかったことと選ばれたメンバーで一応よかったこと等々、今回の旅行において種々貴重な点がうかがえる。

何よりも貴重な事は自らが自分の目で見、耳で聞き手で触れ、心で感じた貴重な体験である。日本という国の意味を見つけたことと思う。これは誰にでもできることであり、海外に行ってきた者の義務であることを改めて確認したいと思っている。

【写真は、戦争のいまわしさを訴える新旧のヴィルヘルム教会】

尾道友愛山荘

中国地方随一の観光地である尾道千光寺公園内に三階建の快適な宿泊施設をほこり、太陽に輝く瀬戸内海を望む楽しい旅行に是非御利用下さい。

広島県尾道市千光寺公園内
尾道友愛山荘 TEL尾道（0848）（22）5554
所長 高橋良宣

（ユース・ホステルの規則に従っています）
宿泊料金 1泊2食 会員 550円 一般 600

友愛山荘

井沢の夏は世界の避暑地としてまた冬のスケート王国としては勿論四季を通じての美しさは，若人の心をいやし明日への活動を約束いたします。

長野県北佐久郡軽井沢町1608
軽井沢友愛山荘 TEL軽井沢（02674）（2）2477
ペアレント 三浦 満

軽井沢友愛山荘

磐梯友愛山荘

朝日磐梯国立公園の まれた景観の中に建って，東洋一を目ざす猪苗代スキー場と清澄な猪苗代湖を望み春夏秋冬それぞれの美しさをほこっています。

福島県耶麻郡猪苗代町字葉山
磐梯友愛山荘 TEL 猪苗代（02426）（2）3424
ペアレント 卯月 研造

問合せ 財団法人 日本友愛青年協会
東京都文京区音羽1－7－1 TEL（941）2801

地方だより

東三河支部結成大会

東海地方に続々組織結集

【豊橋発】愛知県東南部、三河湾一帯の豊都市豊橋市を中心に東三河支部結成大会を開催し発足した。

東三河支部結成の気運は一昨年に芽ばえ、名古屋に次ぐ産業文化の一部は去る九月二十九日（火）午後四時より豊橋市民文化会館において結成大会を開催し発足した。

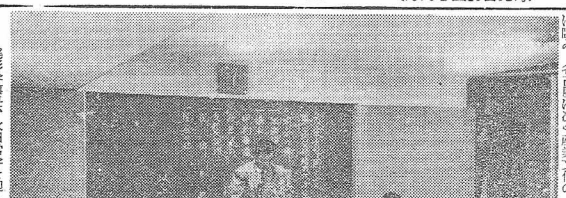
東三河支部結成の気運は一昨年当支部結成準備委員の田中弘之君が、交流協力強化で派遣された時に始まった。そして、本年第七次友愛東南アジア使節団を員として四月に東南アジアを歴訪した杉原美代治君を中心に準備委員会を設置して進められた。又、その指導に神奈川県川崎支部結成に活躍した杉原敏行君も参加し愛知県の三河地域の強力な拠点となった。

結成大会は、司会を福嶋俊一君が行ない、開会の辞を杉原美代治君が行なった。杉原敏行君から、結成までの経過報告があり、議長に杉原美代治君が選出され、規約審議運動方針、事業計画等が審議され役員選出を行ない、新支部長に田中弘之君が選出された。次いで、田中新支部長の三河地区に出来た新支部のこれからの使命、友愛の輪をもっと拡りひろめようと力強い挨拶があり、本部挨拶として情報宣伝部長永田清成常任幹事の友愛の説明、愛知県連の結成の準備等の話を中心になされた。閉会の辞を黒谷厚弘君が行ない、無事に結成大会は終了した。

支部役員は次の通りである。

支部長	田中　弘之
副支部長	杉原　敏行
〃	高橋　秀朝
〃	藤城　俊朗
事務局長	杉原美代氏
会計	吉川　隆三
〃	藤井　賢
幹事	村田　岩男
〃	黒谷　厚弘

愛知県豊橋市青森町十三番地
田中　弘之方
電話豊橋局（54）三三五一



尾形幹事長、永田常幹を迎え結成の決意を新たにする

深川市に支部結成

山荘建設に向って結集図る

【北海道発】道連ではかねて組織拡充の方針を出し本年の第一番目として、去る九月十二日組織部長渡辺支離常幹を迎え組織活動をおこなった。高橋二道連会長、照井孝由道事務局長とが同道し、特に道の青年運動のいくたの重鎮を生み出した深川市にその主催固めをおこなった。

まず運動を始める為にという事になり、九月十八日（金）深川市一已（いっちゃん）公民館において支部結成会を開催した。道連より三浦吉郎前会長、十名さる副会長が出席した。発会式は午後七時より開催され、青年運動の盛んな所でもあり、本会に興味を持つ青年運動の先輩方が見守る中で進められた。

議長は同部宏志君が勤め、支部結成に至るまでの経過、規約審議事業等を検討した。そして、支部長に岡部宏君、事務局長に星野教君を選び、今後の活躍を期して結成大会を終了した。

深川市は道立青年の家総合体育館が先程建設され、北海道の青年運動、教育活動等において非常に注目を集めている所でもあり、今後の本会の活躍が各方面の注目を集めるものと考えられる。

困難を乗り越えて

第六回キマーキャンプ開催

東京生活部は八月二十二日より二十四日まで、第六回夏季サマーキャンプを国立中央青年の家太郎坊キャンプ場にて開催した。当初予定では八月二十一日からであったが、大型台風の影響により一日日程をのばしたが、それにもかかわらず参加者は四十三名と主催者側を驚かせた。今回の主旨は、一、キャンプ生活を通じ会員相互の親睦をはかり、東京生活部本年の目標である大学生支部、共立支部・目黒支部の一体化を押し進めよう。二、新入会員の増強を自然のキャンプ場で行なうことであった。現地へはマイクロバスで到着後、雨のため大テントを張り立ててそれから実行委員の紹介、荻原君の挨拶と吉川君の注意を受けいよいよキャンプ生活の第一歩が始まった。今回の特徴としては、クラフトスタンツの総合点によって賞品が出される。また、クラフトについてはいろいろ外使用禁止で残念、グッドアイデアには点が大幅に良くなるというものである。雨の降る中男子参加者は苦労しながらテントを設置する。また女子は、大テントの中で中食の用意をし共に相互扶助の精神でテキパキと仕事をしていた。そのせいか天候は五時ごろには晴れて星も見ることが出来る。食事後、夕べのつどいが行なわれ各班ミーティングへと移っていった。本年は、各班ごとに自分たちの好きな名前をつけることによりアシュラ、谷岡ヤスシ、など面白い名の班が出来あがった。最初の夜であるせいか皆なかなか寝つかれなかったが十一時すぎには消灯し静かに第一日目は終りをつげた。

朝、起床の声に目をさまし、整理を終えた後、朝のつどい体操によって、全員目をさまし、一日のスケジュールが始まった。二日目は一部変更しフォークソングとゲームそしてキャンプファイヤーが行なわれる事になった。フォークソングは、知ってる曲、知らない曲を荻君、成嶋君、畑山君の指導で富士山が驚くべくらい大声で歌い各人楽しんだ。ゲームは吉川君の進により一風変わった物をしてその後スタンツの練習へと移った。各班が練習している間スタッフは合同夕食のカレーライス作りに生懸命になりプインと参加者のはなになった矢先いた。

食事も済んで満足気な一時

キャンプ最大の興味であるキャンプファイヤーは6時より始まり中には涙ぐ場まである大作もあり審査委員も大変であった。その結果、成嶋君の班が第一位岡田君の班が二位その他五位まで賞が増られ三ヶ所に分れ賞品のスイカ、コーラなどを前に歓声の二つに負けまいと三つの声は天をこえる程であった。しかし消灯ともなると、テントの中で静かに話し合い最後の夜をふけるまで楽しんだ。

明朝までに起きれた三名目、皆目をこすりながら朝のつどいに集まって来る、皆大変疲れたようだしかし、最後のつ営がひかえているだけに寛刺に注意を聞いている。さあ帰りの仕度だ。皆、団結し、テントをたたむ、借りた物を整理する、テキパキと仕事する、皆疲れている事を顔にもださずにやっている。三島支部の参加、すいかの味、キャンプファイヤーの楽しさ、食事のまずさ、そんな事を頭にいだきながら、仕事をして行く、終った――トラックに荷物をつみ、青年の家へ帰す。さあ、帰りだ、箱根を廻り家へ帰れるのだ、という顔顔顔、デラックスバス、乗る参加者はそんな様に見えた。このキャンプは自分に対し何かみえないものを持って帰るだろう、大雨の中の総代、団結心――。

荻原美二（東京学生部委員長談）

学生部の新しい態勢で今年から動く事になり、金閣学生会議の後気分的にも盛り上げようと思っていた矢先に意に憂まれなかったが、何か清清感が生れたような気がします。

札幌北支部で総会

福祉活動を重点的に展開

【札幌発】札幌北支部（支部長＝佐藤章君）では八月二十日（木）午後六時半より市内の東区出張所で四十五年度の支部総会を開催した。

札幌北支部は福祉施設の慰問を始めとする社会福祉活動を中心にレクリエーションなどを折り込み活発な運動を展開している。会員一般の勤労青年が含んで特に女性会員の多いのが目立つ、施設の慰問などは女性会員のきめ細かな心尽しをうまく生かしている。

四十五年度運動方針概略、

動開する現代社会において、私達にとって何が必要であろうか。青年団の運営に以前と同じ考えで臨むことはできない。時代に合った、その時その立場において活動そのものを考えていかなければならない。今、友愛精神が必要な時代で、友愛理論の学習として実践活動を通して友愛の必要性を世に訴えなくてはならない。こういったことから本年は友愛思想の追及、学習会・レクリエーション福祉活動と学習と実践を二本柱として運動を進めて行く。特に福祉活動とアクリエーション活動に重点を置いて行く。

新役員

支部長	大槻　泰記
副支部長	廣瀬　静子
〃	佐藤　章
事務局長	栗倉　冨子
事務局次長	柳沢　俊一
〃	高橋　利子
会計	印牧　宏美
会計監査	板田　弘子
幹事	五十嵐健二
	浅水　博尚
	安藤　紀子
	高橋　真知

各地で支部結成の動き

【松山発】愛媛県松山市は以前支部活動があったが越近下火になっているため松村康夫君が中心となり青年をはかり動きが活発化している。

【新潟発】新潟市の組織化は以前に手がけられて来たが先般ヨーロッパ代表団に指導者として参加した石崎游夫君と同じ職場に働く小島重信君らが中心となり十一月に開れる友愛文化講演会を契機に支部結成を計ろうとしている。

【府中発】山梨県府中では田辺治君が中心となり組織化を計ろうとしている。山梨県本会組織の弱少地域であるため是非とも達成したい。

【松江発】松江支部指導者の高倉化により活動が滞っていたがこの度の第七次友愛東南アジア使節団に参加した佐藤民部君が中心となり支部の再建を計っている。文化講演会開催と併せ結成される見込み。

【長井発】山形県長井市の工藤美智義君達が中心となり十月結成を目指している。山形に支部誕生すれば東北ブロックの組織も一段と強まるためこの結成は仙台・青森・八戸と並んで大いに期待されている。

【仙台発】東北の組織は仙台支部が結成されると一応の体制が完成される。現在仙台は既組織として活動しているが近いうち庄司格中野正志両君らが中心になって支部が誕生する見込みである。

【八戸発】青森県で第二の都市八戸では坂本美洋君らが中心メンバーで組織化を計っている。会員は高校生を中心にして行く計画で機動力を富んだ支部が誕生するものと期待されている。

【所川原発】青森県津軽半島の経済の中心地で五万余りの人口の市で、以前からの地域青年団組織の強固なところであるが、現在鎌田栄二君らが中心に組織化が進められている。メンバーは青年団OBが中心となるため地域青年団の良き指導者となり活躍されることが望まれている。

【西春発】愛知県西春は先に組織された清洲町の隣の町で、丹羽恵義君らが中心となりメンバーを募っている。

中央日誌

8／1 核兵器廃止・平和連盟広島集会（後三時、於広島市平和会館）
3 訪日ドイツ青少年代表団さよならパーティー（後七時、於八芳園）
4 第十九回国独定期交歓団独日本青少年代表団 帰国（後五時 於羽田）
友愛青年協会石橋義夫常務理事 北海道 視察（～七日）
5 第四回常任幹事会（後七時 於本部事務所）
6 B・S第四回日本ジャンボリト開会式（後五時半 於朝霧高原）
7 早朝墓参会（前六時半 於谷中墓地）
青少年育成国民会議施設部会（後一時半 於修養団）
10 世界連邦日青協第三回理事会（後四時 於議員会館）
12 万国博"世界青少年のつどい"実行委員会財務部会 総務部会（後一時、於町村会館）
日本青年海外協力隊激励会（後五時半、於協力隊）
14 青少年育成国民会議"明日を築く青少年のつどい"第一回打合せ会（後六時 於日本青年館）
18 第三回日欧青少年交歓団 帰国（後八時 於羽田）
21 第六回友愛サマーキャンプ（～二十四日 於富士山太郎坊キャンプ場）
22 日本健育会部大会（前十時半 於九段会館）
28 北方領土返還促進国民大会実行委員会（前十時 於北海道庁東京事務所）
29 万国博"世界青少年のつどい"合同反省会（後一時半 於国立青少年の家）
9／1 青少年育成国民会議・事務局幹事会
4～6 第2回中級指導者研修会（於修路青年の家）
7 早朝墓参会
友愛婦人定例役員会
8 文部大臣と社会教育団体との懇談会（於国立社会教育研修所）
3～4 青少年育成国民会議研修会（於江田島青年の家）
18 北海道・深川支部結成大会
21 青少年育成国民会議・事務局幹事会（於饒山会館）
25 中青連 役員会（於 中青連）
27 政府青年海外派遣者出発（於神戸港）
28 伊東市文化講演会
29 豊橋市文化講演会
30 東三河支部結成大会
大津市文化講演会
高校生を中心にして行く計画で機動力を富んだ支部が誕生するものと期待されている。

営業品目
機械部　電子計算機・電子複写機・タイムレコーダー・ベルタイマー
化成品部　ビニール・プラスティック・ポリエチレン製品の製造及加工
紙業部　紙袋・装紙印刷・洋紙・特殊紙・その他・紙工品
自動車部　ホンダ N360・ホンダニ輪車・自動車損害保険
特販部　コピー用紙（電子・ジアゾー・ゼロックス）現像液・トナー・青写真
ニッセー株式会社
東京都千代田区外神田4丁目5番4号
電話東京(03) 253－7581(代)

株式会社 中嶋組
取締役社長 中嶋信行
東京都世田谷区三軒茶屋二の五九
電話(七〇二)一三三～四番
営業品目
アスファルト系舗装工事
セメント系舗装工事
其の他各種舗装工事
舗装に付帯する各工事

綜合警備・各種建築内外清掃
ボイラー・電気保守管理業
指定 北海道教育委員会・札幌市教育委員会
釧路市教育委員会
株式会社日本製鋼所
東洋実業株式会社
代表取締役 吉川昭市
副社長 向田忠一
本社 札幌市南1条西2丁目（勧銀ビル8階）
電話 代表 25－2211内線219
直通26-9520・9521 夜間直通25-2217
営業所 釧路・帯広・釧路・苫小牧・岩見沢

創業25年余の伝統と技術を誇る！
特殊切削工具メーカー
森山精密工具 株式会社
取締役社長 五十嵐省吾
本社工場 東京都品川区西大井6－14－3 TEL (03) 774－0881(代)
第2工場 東京都品川区豊町2－8－7 TEL (03) 783－6405
営業所 東京都墨田区東向島6－52－5 TEL (03) 314－4197(代)